

## 地域と人のつながりを大切に陶芸の道を

もちがせちそくがま  
用瀬知足窯



岸本 陽子 さん  
Yoko Kishimoto



教室では、一人ひとりの生徒さんをしっかりと指導していきます

### のどの渇きが師に導く

用瀬町別府べふに、大きくはありませんがどっしりと存在感のある陶芸の窯があるのをご存じですか？ その名も「用瀬知足窯」。窯元は、陶芸を始めて4年の岸本陽子きしもと しょうこさんです。

小学校の教員だった岸本さんは、平成16年に早期退職。

4年前の平成17年の秋のことでした。紅葉の大山をドライブ中、のどの渇きを感じたちょうどその時に、「現代工芸美術館」と「コーヒー」という看板が目飛び込んできた

そうです。「思わずハンドルを切っていました」。これが岸本さんの陶芸家への道のスタートでした。

「中に入ってびっくり。圧倒されるくらい素敵な陶芸の作品ばかりで、すっかり心を奪われました」と岸本さんは、その時の感動を振り返ります。

その美術館は、後の師匠となる創作陶芸作家、長井ながい萱里庵かんなあんさんの個人美術館でした。コーヒーを飲みながら長井さんと話し込むうちに、すっかり長井さんの「人」と陶芸の世界に魅せられてしまうことに。焼き物には興味があっ

ても、自分で作ることは思ってもよらなかった岸本さんでしたが、長井さんの作品を見て、「自分で作りたい」という強い思いが。「作りにきたらいいよ」と気軽に言われたその一言が岸本さんの背中を押しました。

### 修行に通いながら

家族とも相談のうえ、毎週2回、弁当持参で大山町羽田井はたいいの長井さんの工房に、片道1時間45分かけて通い、1カ月後には弟子となりました。陶芸は「土練り3年、ろくろ10年」と言われますが、「師匠の指導は独自のものなんで

す。もちろん土練りもしますが、最初から楽しんで作らせてもらえました」岸本さんは生き生きと笑顔で語ります。

発想を大切にして独自性を発揮しながら、技術的な要素はきちんと指導を受け、焼き物の技を習得していきました。長井さんは岸本さんの家族とも熱心に関わりを持ち、「工房と穴窯づくり」の構想と、将来的に「陶芸を地域づくりに生かす」という考え方について、じっくりと話し合いました。

平成18年には自宅の物置を改造して工房を作り、翌年に同じ敷地に、長井さんの緻密ちみつ

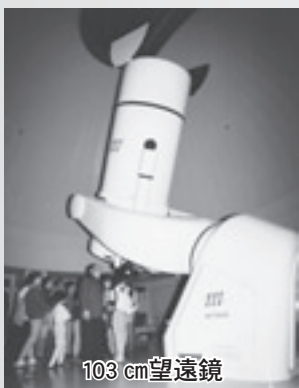
自然界の観察に欠かせない道具に、顕微鏡と望遠鏡があります。そして、物を拡大して見る、最も手軽なものに天眼鏡があります。天眼鏡の別名は虫眼鏡。虫のように小さな物を拡大してより詳しく見るための道具ですね。薄暗い夜店で、手相見が天眼鏡を手にして客の手相を見たり、お年を召した人が天眼鏡を手にも新聞を読みふけったりする姿を、よく見かけます。

天文で使用する天体望遠鏡は、いわば天眼鏡を拡大したものです。さじアストロパークには口径 103 ㍉という大きな目玉を持つ天体望遠鏡があります。目玉が大きくなると、それだけ多くの光を受け取ることができます。暗い場所で、人間や動物の瞳が大きく広がっているのと同じことです。

もし、みなさんのお宅に望遠鏡があれば、反対の方からのぞいてみてください。見える物がきっと小さくなっていることに気付くでしょう。望遠鏡は顕微鏡の逆の原理による物です。望遠鏡が発明されたばかりの頃、望遠鏡のことを逆顕微鏡と呼んだ人があったそうです。

この望遠鏡には、いくつかの方式がありますが、レンズを使った屈折望遠鏡、鏡を使った反射望遠鏡に大きく分けることができます。レンズを大きくして望遠鏡に組み上げるには多くの困難を伴います。しかし鏡を使うことで、この困難を少なくできることから、大きな望遠鏡のほとんどは反射望遠鏡になりました。

さじアストロパークの口径 103 ㍉の天体望遠鏡も、やはり反射望遠鏡です。巨大な大目玉を、ぜひアストロパークで実感・体験してみてください。



■問い合わせ先  
さじアストロパーク  
佐治町高山1071-1  
TEL (0858) 89-1011



真剣な表情でろくろをまわす岸本さん

ることにしました」

### 「土」と「炎」と「大気」と「人」

平成19年4月に最初の窯焚

な計算と独自の築法により窯が完成。長井さんの「知足庵窯」から一部をもらって用瀬知足窯と名付けました。

「まだまだ修行中の身ながら、陶芸体験教室も開くことに。「修行を始めて1年で、人に指導なんてムリと思っただけですが、師匠がサポートすると言ってくださり、取り組んでみることにしました」

「師匠から、陶芸を『目的』ではなく『手段』にせよと。陶芸で地域に貢献するのも一つ。教室の時だけでなく、気

### 地域の宝として

軽に集まっていただけのような場所にしたいですね」

岸本さんの活動は新聞や口コミで広まりました。用瀬町中央公民館から声がかかり、公民館行事として昨年「陶芸教室」を開講しています。生徒さんは約20人。今年3月の流しびな行事では、陶製のひな人形作り体験をして、参加したみなさんに喜んでもらえました。今は10月の用瀬町ふれあいまつりの出展に向け、制作に熱が入ります。

順風満帆のように見える岸

本さんの陶芸家への道ですが、人には見えない苦労も多々あるとのこと。「教員時代があったからこそ、今の私がある。苦しくても耐えることができます」ときっぱり。

「出会いが人生を変えるってよく聞きますが、まさか自分もそうなるなんて……」笑顔がとても素敵な元氣っぱの岸本さんが「生懸命取り組む「窯」が、人をつないでいく地域の宝としてひととき輝いています。

※岸本さんの作品は、流しびなの館観光物産センター(TEL 0858) 87-3220)で購入可能です。